

平成 27 年度 (2015) JBCF 事業報告書

平成 26 年 (2014 年) 10 月 11 日第 7 回 JBCF 輪島ロードレースの開催前日に平成 27 年度の「連盟活動方針」を発表しました。

その骨子は、JBCF「J PRO TOUR」を国内最高峰のロードレースシリーズとして、いかに価値を高めていくかということです。翌年の 2015 年の J PRO TOUR 参戦チームは、2014 年 11 月 3 日開催の最終戦、第 1 回 JBCF 大分クリテリウム終了後決定する年間チームランキング等によりシード非シード合わせ総数 20 チームとする予定を発表しました。

さらに、2014 年 12 月 13 日、品川区上大崎の自転車総合ビルにて、2015 年度事業活動方針発表会を開催し、メディア、チーム関係者などへ 2015 年度事業活動方針を発表しました。また、最終選考会を経て、UCI コンチネンタル 9 チームと新規申請 3 チームなど合計 22 チームに 2015 年 J PRO TOUR チームライセンスを付与しました。

「競技で楽しく、見て愉快、目指すは J P T から東京五輪へ」

メジャースポーツへの成長 (魅せるレース、創るレースへ)

2015 年は、2016 年へ向けて早期に連盟の方針を発信し、J PRO TOUR 各チームが年間のレース活動を通じてその総合力を成長させ、J PRO TOUR を魅せるレースとし、新たなステージを JBCF が創造することによりメジャースポーツへの成長を目指すため、以下のような活動を行いました。

1. 2016 年の J PRO TOUR チーム選考基準を発表

2015 年 J PRO TOUR 第 1 戦となる第 2 回 JBCF 宇都宮クリテリウム (3 月 15 日開催) の前日に下記のように、斧 理事長から発表しました。

- ① J PRO TOUR 参戦チームは、シード 15 チームと非シード 5 チームの総数 20 チームとする。
- ② シード外チームは主催者枠で選出し、大会別の参戦ワイルドカードも JBCF がその権利を保持すること
- ③ J PRO TOUR チームの個人ステータス (資格) は撤廃すること
- ④ チーム運営会社は法人化されていること
- ⑤ チーム登録料 (分担金) は 100 万円とすること

2. 大会開催実績

2015年 JBCF ROAD SERIES は、J PRO TOUR 全 24 戦、J ELITE TOUR 全 36 戦、J FEMININE TOUR 全 34 戦、J YOUTH TOUR 全 5 戦を全て開催し、新たな試みとして、TWO IN ONE 大会を次の 6 会場に設定し、参加人数の増加など予想通りの成果を上げることができました。

2015年 9月 28日現在、JBCF 登録選手は 2,723 人（前年比 109.5%）、320 チーム（前年比 109.2%）となりました。また大会参加者総数は 13,500 人（前年比 123.5%）となりました。

- ① 旧南紀白浜空港（4月 18日、19日）
- ② 群馬サイクルスポーツセンター（4月 25日、26日）
- ③ 広島中央森林公園（7月 4日、5日）
- ④ 長野県宮田村（8月 29日、30日）
- ⑤ 新潟県南魚沼市（9月 19日、20日）
- ⑥ 大分県大分市（10月 31日、11月 1日）

2015年 JBCF TRACK SERIES は予定通り全 3 戦を開催しました。

第 49 回 JBCF 西日本トラック（5月 10日：関西サイクルスポーツセンター）では、上野みなみ（鹿屋体育大学 BLUE SKY）が、女子 3 km インディヴィデュアルパーシュートにて西日本実業団記録を更新しました。

第 46 回 JBCF 東日本トラック（8月 9日：伊豆ベロドローム）では、窪木一茂（Team UKYO）が、1km T.T と個人パーシュートにて実業団新記録を樹立しました。

第 46 回 JBCF 全日本トラック（11月 5日：伊豆ベロドローム）では、イナーメ信濃山形チームが、チームパーシュートで実業団新記録を樹立するなど、各大会中長距離種目に出場ロード選手の獲得ポイントをロードポイントに付加したため、参加者の大幅増加と共に記録の更新などが注目されました。

3. JKA 補助金による大会開催実績

JKA の補助金を受けて今年度は下記 7 大会を開催しました。収益事業の少ない連盟運営に JKA 補助金は、連盟活動の進化に大きく寄与している。

- ① 第 49 回 JBCF 西日本トラック（5月 10日：関西サイクルスポーツセンター）
- ② 第 49 回 JBCF 西日本ロードクラシック（7月 5日：広島中央森林公園）
- ③ 第 14 回 JBCF 石川サイクルロードレース（7月 19日：福島県石川町）
- ④ 第 46 回 JBCF 東日本トラック（8月 9日：伊豆ベロドローム）
- ⑤ 第 49 回 JBCF 東日本ロードクラシック（9月 20日：新潟県南魚沼市）
- ⑥ 第 49 回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ

(9月26日：群馬サイクルスポーツセンター)

⑦ 第46回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ

(11月15日：伊豆ペロドローム)

4. UCI 公認レース開催に向けての活動

JBCF ROAD SERIES の最終会場の大分県大分市にて、大分市長に対し大分県自転車競技連盟と連名で、UCI レース誘致活動を要請しました

広報強化、情報発進力の向上

1. Jスポーツでの J PRO TOUR 総集編 (60分) の放映を継続

- ① 前半戦を8月22日、25日、28日、29日の4回で放映
- ② 後半戦を12月22日、27日、2016年1月7日、8日の4回で放映

2. U ストリームによる大会実況を配信

- ① 第49回 JBCF 西日本ロードクラシック (7月5日：広島中央森林公園)
- ② 第7回 JBCF みやだクリテリウム (8月30日：長野県宮田村)
- ③ 第5回 JBCF タイムトライアルチャンピオンシップ (9月6日：栃木県渡良瀬遊水地)
- ④ 第8回 JBCF 輪島ロードレース (10月11日：石川県輪島市)
- ⑤ 第5回 JBCF 知多半島・美浜クリテリウム (10月25日：愛知県知多郡美浜町)

3. JBCF 公式ガイドブックの発行

2008年初発刊の「J ツアー：旧称」公式ガイドブックを2015年も継続制作し、3月15日のシリーズ初戦、第2回 JBCF 宇都宮クリテリウムの会場にて配布開始しました。7月1日からはデジタル版も制作しHPに掲載しました。

4. JBCF ROAD SERIES 2015 年間アワードは、例年通りサイクルモード幕張メッセ (11月7日) のメインステージで多くの観客を前に実施しました。

チーム総合優勝：Team UKYO

個人総合優勝 (ルビーレッド)：畑中勇介 (Team UKYO)

個人新人賞 (ピュアホワイト)：新城 雄大 (那須ブラーゼン)

J ELITE TOUR チーム総合優勝：クラブシルベスト

J ELITE TOUR 個人総合優勝 (ネクストイエロー)：佐藤 信哉 (VC Fukuoka)

J FEMININE TOUR 個人総合優勝 (シスターローズ)：伊藤 杏菜 (Champion System Japan)

J YOUTH TOUR 個人総合優勝 (アクアブルー)：日野 泰静 (チームグロシヤ)

翌日（11/8）幕張メッセにて、第7回サイクルモード併催タイムトライアル選手権への選手派遣と運営に協力しました。

JBCF 広報ブースは幕張メッセ（11/6～11/8）に出展し、You Tube で放送した 2015 年 J PRO TOUR 全レースの動画を大型モニターで流すなど広報活動に努めました。

5. 2017 年は、全日本実業団自転車競技連盟創立 50 周年となることに合わせ、J PRO TOUR 元年と位置付けし、記念事業や記念誌編纂などの企画案を協議するため、JBCF 企画広報委員会を 4 回開催しました。

本部機能の充実

1. 連盟強化、競技審判役員、チームスタッフの育成

2014 年から開始した、JCF 公認ライセンス「チーム・アテンダント」取得のための講習会を実施しました。昨年からの導入の写真入り修了証（ID カード）も、JBCF 独自に発行しました。

- ① 東京会場（2 月 28 日：品川第一区民集会所） アンチドーピング講習会併催
- ② 大阪会場（3 月 7 日：堺市産業振興センター） アンチドーピング講習会併催
- ③ 中京地区会場（3 月 22 日：大府市料亭みかど）

2. 競技役員配備システムの本格的運用に向けて、シーズン後半から試験運用を開始、2016 年からの本格導入に備えました。